

# 平成29年度 事業報告書



I 法人の概要	・・・・・・・・P.1
II 事業の概要	・・・・・・・・P.7
III 財務の概要	・・・・・・・・P.30

平成30年5月  
学校法人 浪商学園

# I 法人の概要

## 1. 建学の精神

不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する

## 2. 学園の使命（ミッション）

建学の精神に基づき、学業・スポーツ・研究を通して心身ともに健全な人材を育成し、幸福で平和な社会の実現に寄与する。

## 3. 学園の将来構想（ビジョン）

学園の使命（ミッション）のもと、設置校それぞれの特色を活かし、時代の最先端を行く社会に認められる教育機関となる。そのために、各設置校が幼児教育から高等教育まで相互に連携を図りながら、魅力ある教育等の提供により各界・各分野をリードする人材の育成をめざす。

## 4. 学校法人の沿革

1921 年(大正 10 年)	大阪市天王寺区に浪華商業実修学校(現浪商学園)創立
1923 年(大正 12 年)	大阪市南区に浪華商業学校として移転
1926 年(大正 15 年)	大阪市東淀川区に新校舎を建設し移転
1947 年(昭和 22 年)	浪商中学校 設立
1948 年(昭和 23 年)	浪華商業高等学校 設立。商業科を設置
1949 年(昭和 24 年)	浪商附属幼稚園 設立
1959 年(昭和 34 年)	浪華商業高等学校を浪商高等学校と改称。普通科を設置
1963 年(昭和 38 年)	大阪市東淀川区から茨木市に移転
1965 年(昭和 40 年)	大阪体育大学体育学部 設立
1966 年(昭和 41 年)	浪商高等学校に体育科を設置
1969 年(昭和 44 年)	浪商中学校を大阪体育大学附属中学校と改称し創立（設立）
1970 年(昭和 45 年)	大阪体育大学体育専攻科 開設(平成 4 年 大学院体育学研究科に改組)
1981 年(昭和 56 年)	大阪体育大学産業体育研究所 設立(現 社会貢献センター)
1983 年(昭和 58 年)	浪商高等学校 高槻学舎 開設。普通科（特進コース、普通コース）を設置
1985 年(昭和 60 年)	浪商高等学校高槻学舎を大阪青凌高等学校と改称 大阪青凌中学校 設立
1987 年(昭和 62 年)	浪商高等学校・大阪体育大学附属中学校 大阪府泉南郡熊取町に移転 浪商高等学校を普通科に統一
1989 年(平成元年)	大阪体育大学 大阪府泉南郡熊取町に移転 大阪体育大学附属福祉専門学校 設立 浪商高等学校を大阪体育大学浪商高等学校に改称 浪商附属幼稚園を大阪体育大学浪商幼稚園と改称
1992 年(平成 4 年)	大阪体育大学大学院修士課程(体育学研究科) 開設(平成 13 年 博士前期課程に改称)

1995 年(平成 7 年)	大阪青凌高等学校（特進コース、普通コース）を再編し、特進コース、進学文系コース、進学理系コースを設置
1997 年(平成 9 年)	大阪体育大学体育学部生涯スポーツ学科 開設
2000 年(平成 12 年)	大阪体育大学短期大学部 開学(大阪体育大学附属福祉専門学校閉学) 大阪青凌高等学校に国際コース（男女共学）を設置
2001 年(平成 13 年)	大阪体育大学大学院博士後期課程(スポーツ科学研究科) 開設 大学院体育学研究科をスポーツ科学研究科に改称(スポーツ科学研究科) 開設 大阪体育大学浪商高等学校にコース制を導入（特進コース、体育コース、標準コース） 大阪体育大学附属中学校にコース制を導入（特進コース、標準コース） 大阪青凌高等学校特進コース男女共学化 大阪青凌中学校男女共学化
2003 年(平成 15 年)	大阪体育大学健康福祉学部 開設 大阪青凌高等学校全コース男女共学化 大阪青凌中学校 6 年コース設置
2005 年(平成 17 年)	大阪青凌高等学校（特進コース、進学文系コース、進学理系コース、国際コース）を再編し、特進コース、進学コースを設置
2006 年(平成 18 年)	大阪体育大学体育学部体育学科、生涯スポーツ学科募集停止 スポーツ教育学科、健康・スポーツマネジメント学科を新設
2007 年(平成 19 年)	大阪青凌高等学校に特進 S コースを設置
2009 年(平成 21 年)	大阪体育大学浪商高等学校（特進コース・標準コース・体育コース）を再編し、進学特別コース、進学総合コース、アスリートコースを設置 大阪青凌中学校にジュニア S（特進）コース・ジュニア A（標準）コースを設置
2011 年(平成 23 年)	大阪体育大学短期大学部 閉学 大阪体育大学浪商高等学校（進学特別コース、進学総合コース、アスリートコース）を再編し、Ⅰ類（国公立コース）、Ⅱ類（有名私立コース）、進学総合コース、進学スポーツコース、アスリートコースを設置
2013 年(平成 25 年)	大阪体育大学浪商幼稚園にイマージョンクラスを設置
2014 年(平成 26 年)	大阪体育大学附属中学校を大阪体育大学浪商中学校と改称、（特進コース）を再編し、Ⅰ・Ⅱ類コースを設置
2015 年(平成 27 年)	大阪体育大学教育学部教育学科 開設
2018 年(平成 30 年)	大阪体育大学健康福祉学部健康福祉学科 閉学

## 5. 設置学校一覧

（平成 29 年度末日現在）

設置学校名	学（校・園）長名	学校所在地
大阪体育大学・大学院	岩上 安孝	大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1
大阪体育大学浪商中学校・高等学校	清水 俊彦	大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1
大阪青凌中学校・高等学校	福力 稔	大阪府高槻市前島 3-2-1
大阪体育大学浪商幼稚園	佐々木 悟	大阪府茨木市学園町 1-1

## 6. 学校・学部・学科等の学生数の状況

(平成 29 年 5 月 1 日現在)

学校名	創立年月	学部・学科	募集人員	収容定員数	入学者数	現員数
大阪体育大学	昭和 40 年 4 月	大学院スポーツ科学 研究科				
		博士前期（修士）課程 （2 年）	24	48	13	40
		博士後期（博士）課程 （3 年）	6	18	11	26
		体育学部 スポーツ教育学科	520 (320)	1,960 (1,220)	571 (332)	2,128 (1,306)
		健康・スポーツ マネジメント学科	(200)	(740)	(239)	(822)
		健康福祉学部 健康福祉学科	募集停止	120 [500]	0	137
		教育学部 教育学科	125	375 [500]	167	428
大阪体育大学 浪商高等学校	大正 10 年 11 月	全日制課程 普通科	260	780 [945]	233	754
大阪青凌高等学校	昭和 58 年 4 月	全日制課程 普通科	280	840 [960]	263	746
大阪体育大学 浪商中学校	昭和 22 年 4 月		60	180 [240]	37	109
大阪青凌中学校	昭和 60 年 4 月		30	90 [240]	15	57
大阪体育大学 浪商幼稚園	昭和 24 年 11 月	(3、4、5 歳児)	120	350 [350]	110	303
合 計			1,425	4,761 [5,221]	1,420	4,728

※収容定員数は募集人員を基にした数値であり、学則定員は [ ] 内に記載。

## 7. 教職員の概要

(平成 29 年 5 月 1 日現在) (単位：人)

区 分	法人 事務局	大阪体育 大学	大阪体育 大学浪商 高等学校	大阪青凌 高等学校	大阪体育 大学浪商 中学校	大阪青凌 中学校	大阪体育 大学浪商 幼稚園	計	
教 員	本務	0	107	47	43	11	7	22	237
	兼務	0	118	14	24	7	2	15	180
職 員	本務	21	96	9	9	0	0	2	137
	兼務	4	4	11	3	0	0	5	27

## 8. 役員の概要

理事 10 名 (定員数 5~13 名)

(平成 29 年度末日現在)

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
理事長	野田 賢治	常 勤	昭和 61 年 9 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
常務理事	西尾 一実	常 勤	平成 19 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	岩上 安孝	常 勤	平成 26 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	福田 江兵	非常勤	平成 12 年 5 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	菊池 武之	非常勤	平成 16 年 1 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	長家 秀博	非常勤	平成 19 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	佐川 順一	非常勤	平成 20 年 12 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	豊田 兼典	非常勤	平成 23 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事	小山田裕一	非常勤	平成 29 年 6 月 就任 /
理事	太田 誠一	非常勤	平成 29 年 7 月 就任 /

※非常勤理事は就任順

監事 2 名 (定員数 2~3 名)

(平成 29 年度末日現在)

区 分	氏 名	常勤・非常勤の別	摘 要
監事	藤井 宏一	非常勤	昭和 61 年 9 月 就任 / 平成 23 年 6 月 再任
監事	水野 一郎	非常勤	平成 19 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
監事	中野 徳雄	非常勤	平成 27 年 6 月 就任 /

※監事は就任順

細川 明雄 平成 30 年 4 月 1 日付理事・評議員就任

## 9. 評議員の概要

評議員 20 名 (定員数 11~27 名)

(平成 29 年度末日現在)

区 分	氏 名	摘 要
理事長	野田 賢治	昭和 61 年 9 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
理事からの選任 (3~7 名)	西尾 一実	平成 15 年 5 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	福田 江兵	平成 12 年 5 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	菊池 武之	平成 24 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	豊田 兼典	平成 24 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	岩上 安孝	平成 26 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	小山田裕一	平成 29 年 6 月 就任 /
	太田 誠一	平成 29 年 7 月 就任 /
学識経験者からの選任 (2~5 名)	福田 芳則	平成 23 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	淵本 隆文	平成 27 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	板原 和子	平成 27 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	工藤 文三	平成 27 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	前島 悦子	平成 29 年 4 月 就任 /
設置校卒業者からの選任 (3~10 名)	荒木 豊	昭和 62 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	武藤 隆義	昭和 63 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	古家 啓二	平成 11 年 6 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	長家 秀博	平成 13 年 5 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	佐川 順一	平成 20 年 11 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
法人からの選任 (2~4 名)	佐々木 悟	平成 22 年 5 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	福力 稔	平成 24 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任
	清水 俊彦	平成 27 年 4 月 就任 / 平成 27 年 6 月 再任

※評議員は就任順

板原 和子 平成 30 年 3 月 31 日付評議員退任

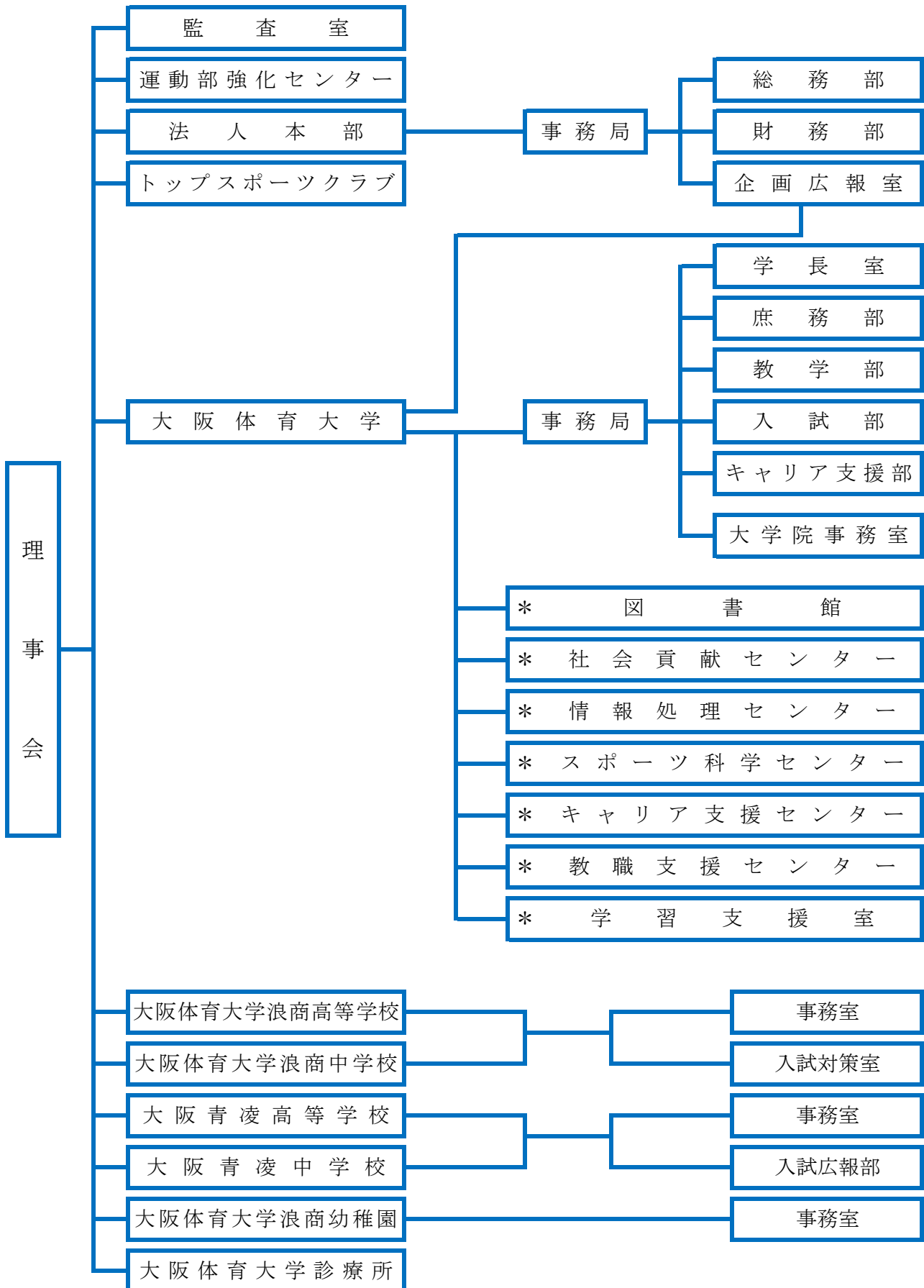
貴島 一義 平成 30 年 4 月 1 日付評議員就任

長崎 正巳 平成 30 年 4 月 1 日付評議員就任

## 10. 事務組織の概要

### 事 務 組 織

(平成29年5月1日現在)



(注) \*は大阪体育大学を冠する



## II 事業の概要



### 1. 大阪体育大学（体育学部・健康福祉学部・教育学部・大学院）

#### ◆目標

大阪体育大学は、2021年までの「学園の将来構想（ビジョン）」を踏まえて、「教育力」「研究力」「社会貢献力」「競技力」「就職力」「学生募集力」「広報・マーケティング力」「組織力・経営力」の大学の8つの力を向上させて大体力を高め、社会に有益な人材を育成するために、平成27年度から30年度までの中期計画を策定しました。平成29年度の主な取り組みを紹介します。

#### 1) 教育力

体育・スポーツ及び健康福祉、教育に関する科学の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と広い見識を備える実践的、創造的な人材を育成し、国民の健康とスポーツ文化及び社会福祉の向上に寄与することを目的とし、目的を達成するため、教育の充実を図ります。

##### （1）「学生“夢”プロジェクト」を実施

熊取町在住の小学生約60名を対象に本学第6体育館で「平成29年度 学生“夢”プロジェクト」を実施しました。新しいスポーツを中心にプログラムを組み、新しいスポーツを知ることで体育・スポーツへの関心を高め、自分の得意種目を探すことを目的としました。学生が主体的に企画、実行し、その成果をまとめて報告をする一連の取り組みを通じて、企業や社会で求められている社会人基礎力の向上も期待されます。

##### （2）「大体大教育学部のプライド 社会に飛び立つために」を発行

教育学部の教員が学生たちに是非読んでもらいたい本177冊を選び、「大体大教育学部のプライド 社会に飛び立つために」（非売品）を発行しました。それぞれの本には教員のコメントを掲載しており、学生たちにも分かりやすい構成になっています。

##### （3）マナーアップキャンペーン

4月と9月、学友会が主体となってマナーアップキャンペーンを実施しています。交通指導、学内外



の清掃活動、学内の美化運動など授業が始まる前の 8 : 20 ~ 8 : 50、昼休み 12 : 20 ~ 12 : 40 に、学生と教職員が協力しマナー向上に取り組んでいます。

#### (4) 国際ソロプチミストが学生サポートチームに支援金を授与

教員をめざす学生が本学近隣の小学校・中学校で、運動のサポートや授業補助などのボランティア活動を実施しました。また、この活動は学生にとっても現場で学ぶ良い機会にもなっています。国際ソロプチミスト（大阪一りんくう）Σクラブの皆さまからサポートチームの活動に対し高い評価をいただき、シグマソサエティの認証と共に、支援金が授与されました。

#### (5) 「大阪体育大学大学院開設 25 周年・博士後期課程開設 15 周年 記念式典」を開催

平成 4 年に西日本初のスポーツ系大学の大学院創設、また平成 13 年に博士後期課程設置をした大阪体育大学大学院は、開設から 25 年を迎え「大阪体育大学大学院開設 25 周年・博士後期課程開設 15 周年 記念式典」を開催し、200 名を超える多くの卒業生、関係者の皆様、教職員、大学院生にお集まりいただきました。金子公有大阪体育大学名誉教授による「大学院開設草創期について」と題した基調講演、「未来を照らす考動—大阪体育大学の歩みと展望—」と題したシンポジウムを実施しました。現在まで、427 名の修士号と 33 名の博士号の学位が授与されています。今後もより高度な学術研究を追求し、スポーツ科学領域で国際的にも活躍できる人材育成、研究に尽力します。



#### (6) 国際・地域交流

海外の大学・研究機関との学術・スポーツ交流協定や交換プログラム協定などを締結し、両大学・機関間で教育研究活動の交流を促進しながら、諸外国へと国際交流活動の輪を広げました。

	国	協定内容
西安体育学院	中国	学術・スポーツ協定
ウェスタン大学	カナダ	交換プログラム
台湾国立体育大学	台湾	学術交流協定

##### ① 西安体育学院との交流

国際交流委員会とダンス部 14 名が西安体育学院へ訪問しました。教育学部学科長植木章三教授の障害者教育についての講演や、ダンス部と西安体育学院ダンスによる合同パフォーマンスの披露など、6 年ぶりの学生同士の交流も深められました。

##### ② ウェスタン大学との交流

国際交流協定を締結しているカナダ・ウェスタン大学、並びに京都府亀岡市で高齢者への運動介入研究を実践している京都学園大学より講師を招聘し「パブリック・ヘルスの拠点づくり～地域に根ざす健康づくりの展開と健康増進に関する研究推進のための地域支援について～」と題した国際交流シンポジウムを開催しました。

### ③ その他の国際交流事業

香港政府公認の古典舞踊再生事業など多方面にわたり活躍され、香港で最も有望な振付家の一人である Kai Chen (カイ・チェン) 氏を招待し、ダンスワークショップを実施しました。また、関西の舞踊研究者、教員、学生、高校生を対象としたダンス講習会としての交流も同時に実施しました。

#### (7) 教職員対象の FD 研修会を開催

淵上孝氏 (文部科学省初等中等教育局教育課程課長) をお招きし、「新しい学習指導要領の考え方 - 中央教育審議会における議論から改訂そして実施へ - 」と題した FD 研修会を開催しました。

#### (8) 食堂の改修についての検討部会を実施

平成 30 年 8 月～9 月の期間で食堂 (厨房の改修等) の改修が決定し、改修内容について平成 28 年度より検討を開始しました。平成 29 年度の第 1 期で「厨房の整備工事+厨房機器の調達」を、平成 30 年度の第 2 期で「トイレ整備工事」を予定しましたが、平成 30 年度の同時期に改修工事を行うことが決定しました。

## 2) 研究力

体育・スポーツ及び健康福祉に関する科学の理論と技術を教授研究し、豊かな教養と広い見識を備える実践的、創造的な人材を育成し、国民の健康とスポーツ文化及び社会福祉の向上に寄与することを目的とし、目的を達成するため、研究の充実を図ります。

### (1) 専門分野発展に貢献

専門分野において貢献が認められ、教員が各種賞を受賞いたしました。

#### ◆受賞一覧◆

受賞者	団体名	賞名	受賞理由
宮地弘太郎 (体育学部・教授)	日本テニス協会	功労賞	2007-2013 ナショナルチームユニバーシアード男子チーム監督・日本オリンピック委員会テクニカルスタッフ 2013-現在 ナショナルチームユニバーシアード男子ヘッドコーチ
松田基子 (体育学部・准教授)	スポーツ庁	奨励賞	スポーツ審判員として優れた資質を有し、世界的な規模の競技会における活動を通して、日本のスポーツの振興及び国際的な地位の向上に資することが期待される

### (2) 一般社団法人日本体育学会より感謝状贈呈

2017 年度一般社団法人日本体育学会定時社員総会において、日本体育学会第 67 回大会 (「スポーツと“ひと・社会” - 融合と進歩の先に - 」) 主管校の本学に対して感謝状が贈呈されました。

### (3) 第 70 回関西哲学会を開催

本学で第 70 回関西哲学会が開催され、研究発表やワークショップが行われました。本学からは体育学部 中村健講師が「プルタルコス動物関連著作における徳性の役割について」を発表しました。

### (4) 「ひらめき☆ときめきサイエンス～走りを科学する。自分の筋骨格の特徴を調べ、短・長距離走を能力アップ!～」(日本学術振興会後援)を開催

高校生(近畿圏の公立・私立高等学校)を対象に「走りを科学する。自分の筋骨格の特長を調べ、短・長距離能力アップ!」を開催し、20 名を超える参加がありました。このプログラムは日本学術振興会の後援で、大学や研究機関で「科研費」により行われている最先端の研究成果に、小学 5・6 年生、中学生、高校生が、直に見る、聞く、触れることで、科学の面白さを感じてもらう内容です。日頃、高校の教室で受ける授業とは違う雰囲気の中、体育学部 石川昌紀教授の講義に耳を傾けていました。実習では世界に一つしかない測定機器を用いての「走り」のチェックや、超音波装置を使って筋肉や腱を測定しました。参加者は、自分の筋力や走法など客観的に見ることができ、大変興味を示していました。なお、本事業は、日本学術振興会のホームページにも事例紹介されています。



### (5) 院内で透析を受けながらベッド上で運動できる体操を開発

体育学部 前島悦子教授、池島明子准教授、友金明香講師、前田めぐみ助手が携わり、医療法人博文会と共同で開発しました。医療法人博文会で透析治療を受けておられる患者様が、院内で透析を受けながらベッド上で運動できる体操で、DVD2 巻にまとめられています。

### (6) 研究倫理講習会を開催

黒木登志夫氏(日本学術振興会学術システム研究センター顧問)をお招きし、「研究不正を防ぐために」と題した研究倫理講習会を開催しました。「ねつ造、改ざん、盗用」「不適切な研究行為」「研究不正の結末」「研究不正に対する処分」「研究不正を防ぐために」について詳しく説明いただきました。

### (7) 地方自治体、地域教育機関との提携・連携

平成 29 年より大学の特色あるプロジェクト研究として「インクルーシブ教育推進に向けての具体的方策に関する実際研究」を行ってきました。大阪市教育委員会、岸和田市教育委員会、奈良県教育研究所、和歌山県教育センターや各府県特別支援学校教員、地域小・中学校教員等 30 名が関わり、インクルーシブ教育を推進する課題とその解決策について研究を実施しました。

## 3) 社会貢献力

社会貢献活動は、教育、研究とならぶ大学の重要な役割の一つです。ボランティア活動等の社会的活動に対して、学生が積極的に参加・活動できる環境及び支援体制を整備しています。また、「社会貢献センターやスポーツ科学センター等の付置施設の活動を活発化し、大学の人的・物的資源を積極的に活用して、地域社会と連携協力しながら、地域のスポーツや福祉の振興、青少年の健全育成、健康・体力づくりに貢献する活動を推進する」と、連携・協力の方針について示しています。そして、5 つ

の取り組みの指針を掲げ、社会との連携・協力の取り組みを推進しています。

### （１）貝塚市と協定締結

体育・スポーツを通じた地域住民の健康づくり及び地域社会の活性化に向け、相互の連携強化を図るため協定を締結しました。2020年東京オリンピック・パラリンピックにかかる情報交換、市民と学生による健康づくり活動、スポーツ振興、行事・イベントの総合協力や施設設備の相互活用など、多方面にわたる協働を進めます。

### （２）熊取町と協定締結

“熊取町×大阪体育大学”DASHプロジェクトに関する協働協定を締結しました。少子高齢化、人口減少到来を迎え、住民の健康増進および町の活性化を図るため、運動・スポーツを通じて、永く楽しく元気に暮らせるまちづくりを協働で推進します。

### （３）ミズノ株式会社と協定締結

ミズノ株式会社と連携協定を締結しました。スポーツ庁が推進する「大学スポーツの振興事業」をはじめとする一連の施策について、ミズノ株式会社が掲げる「より良いスポーツ品とスポーツの振興を通じて社会に貢献する」という経営理念を体現できるものであると、大いに期待されています。

### （４）和歌山県教育委員会連携協定事業 「バドミントン実技講習会」を実施

和歌山県教育委員会と締結した連携協定事業の一環で、和歌山県高等学校保健体育科教諭を対象に、授業での指導力向上を目的とした「バドミントン実技講習会」を和歌山県立体育館で実施しました。体育学部有吉晃平講師（本学バドミントン部監督）とバドミントン部部員3名が講師として参加しました。現職の高校の先生方を対象とした講習会のため、参加した学生もとても緊張していましたが、先生方もとても熱心に受講くださり、大変よい講習会となりました。

### （５）体力若返り講座 in 大阪体育大学

熊取町在住40歳以上の方を対象に6月から12月の全11回「体力若返り講座」を実施しました。健康づくりに関する座学（60分）と運動習慣を身に付けるための実技（60分）でプログラムが組み立てられており、講座の最初と最後には体力測定を行い、その成果を確認します。健康に関する知識と運動習慣を身につけ、健康づくりに対して自立する意識を高めることを目標とした取り組みです。



### （６）高大連携事業

大阪体育大学浪商高等学校、興国高等学校のアスリートクラスを中心として、体力測定を行いました。健康・スポーツマネジメント学科アスレティックトレーニングコースの学生を測定員として、スポーツ科学センターの協力のもと、本学の体育館、測定機器を利用して測定し、フィードバックしました。また、府立大塚高等学校2年生約80名の皆さんが来学し、バイオメカニクス、心理、アスレティックトレーニング、栄養学の4コースに分かれての体験授業を実施しました。



(7) ライフセービング部：救助活動で第五管区海上保安庁関西空港海上保安航空基地より表彰  
 淡輪海水浴場（大阪府泉南郡岬町淡輪）で発生した水難事故において、本学ライフセービング部員が救助を行い、第五管区海上保安庁関西空港海上保安航空基地より表彰されました。日頃、活動拠点としている海水浴場の海開き期間を通して死亡事故ゼロを達成することができました。



#### (8) 地域公開講座、シンポジウム、セミナー

大体大 DASH プロジェクト（別途掲載）や社会貢献センター、また学部が主催となる地域公開講座を開講しました。

シンポジウム名	プログラム名	備考
スポーツフォーラム 「これからの子どもの スポーツ環境を考える」	「これからの子どもの運動・スポーツ環境を 考える」 「望まれる環境づくりにむけて」 「発育発達の観点から」 「部活動の在り方」 「幼児期の運動・スポーツ」 「多様なスポーツが経験できるしくみづくり」	公益財団法人 ライフスポーツ財団 社会貢献センター 共催
地域公開講座 「学んでみよう 当事者研究 -べてるの家の皆さんをお迎えして-」	当事者研究	健康福祉学部 主催
地域公開講座 「特別支援教育 教育講演会 “障害児・者の正しい理解と 適切な支援を行うために”」	「通常の学級における 特別な教育的ニーズのある 子どもの支援～発達障害を中心に～」 「ほめることは大切だけど難しいー生徒指導・支 援教育・人権教育担当者との連携ー」 「生涯教育としてのボッチャの可能性」	健康福祉学部 教育学部 社会貢献センター 共催
大阪体育大学空手道一般公開講座	「フィジカル&アカデミックに、体育大学の空手 を体験してみよう！」	大阪体育大学空手部、空 手部 OB 協力

## 4) 競技力

クラブ活動における競技力向上のため、施設を整えるとともに、多くのサポートを実施しています。

### (1) スポーツ庁より「平成 29 年度大学スポーツ振興の推進事業」を受託

「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版 NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）」を委託する 8 大学の 1 つとして選ばれました。

## (2) 大体大 DASH (Daitaidai Athlete Support & High Performance) プロジェクト

2015 年の開学 50 周年に「大体大ビジョン 2024」を掲げました。その中核事業として、2016 年度から「大体大 DASH (Daitaidai Athlete Support & High Performance) プロジェクト」と称し、本学が有するスポーツ医・科学の研究・教育の知見を活かした学生アスリートのハイパフォーマンス支援に加え、学習、キャリアなどの総合的アスリート支援を稼働しています。

取り組み名	内容
シンポジウム 「大学が拓くハイパフォーマンスサポートとスポーツ振興」を開催	大学スポーツの振興を担う各大学の取り組みについて、ハイパフォーマンス事業とスポーツ振興に先進的に取り組む大学の事例や課題を共有し、大学が果たすスポーツ振興への役割と展望を見据え、シンポジウムを開催
“熊取町×大阪体育大学” DASH プロジェクトに関する協働協定締結	少子高齢化、人口減少到来を迎え、熊取町と大阪体育大学は住民の健康増進および町の活性化を図るため、運動・スポーツを通じて、永く楽しく元気に暮らせるまちづくりを協働で推進する
「JAPAN RISING STAR PROJECT 世界で輝け未来のトップアスリート」 第 2 ステージ in 大阪体育大学	2016 年 10 月に発表された「競技力強化のための今後の支援方針」に伴う事業。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、有望なアスリートを発掘していくことを目的に実施。そのプロジェクトを支える測定会場に、関西エリアでは唯一スポーツの拠点として本学が選ばれている
「たじりっち体操」	「田尻町 8000 人の健康大家族」をめざし、町民の健康寿命延伸のための実施した事業のひとつ。本学に対し、まちの健康づくりとシティプロモーションを促すオリジナル健康体操の開発依頼があり、監修を体育学部三島隆章准教授が担当
受託事業 「女性アスリートに対する心理サポートプログラムの開発」	「平成 29 年度スポーツ庁委託事業女性アスリートの育成・支援プロジェクト＜女性アスリートの戦略的強化に向けた調査研究＞」として採択。「女性アスリート心理サポートカフェ」やシンポジウムを開催
アスリート・キャリア・トーク・ジャパン 2018	味の素ナショナルトレーニングセンター（東京都北区西が丘）で、スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポート推進戦略」の一環としてシンポジウムに登壇
日本スポーツ産業学会・関西セミナー	日本スポーツ産業学会主催、大学スポーツ推進コンソーシアム in kansai 共催のセミナーにシンポジストとして登壇。関連シンポジウム・セミナーにも多数出席
和歌山県ゴールデンキッズトレーニング合宿	和歌山県内の小学生を対象に、体力・運動能力が特に優れた子ども達を発掘し、育成プログラムを実施することにより、将来、オリンピックをはじめとする国際舞台で活躍できる競技者を和歌山県から輩出することを目的とするタレント発掘プロジェクト。本学で開催している同トレーニング合宿では、参加する子ども達に様々なスポーツを体験する機会の提供やスポーツ科学に触れてみることで、自身のパフォーマンスを科学的に捉えることの大切さや面白さを体験してもらう機会を提供
大阪体育大学・ウェスタン大学との学術・文化交流事業	「パブリック・ヘルス拠点づくり～地域に根ざす健康づくりの展開と健康増進に関する研究推進のための地域支援について～」と題した、国際交流シンポジウム並びにパネルディスカッションを開催

こども夢・創造プロジェクト 「大体大 DASH スポーツ・ラボ “巧みなボールさばきを身につけよう！”」を開催	大阪市と民間企業・団体の協働により実施しているプロジェクトで、年間を通じて「スポーツ」「文化」「科学と自然」「ものづくり」などの分野で様々なプログラムが展開されている。大阪市内在中小学 5 年生から中学 1 年を対象に開催し、ハンドボール部女子監督 楠本繁生准教授、同部コーチ 下河内洋平教授、ハンドボール部男子監督 下川真良講師、ハンドボール部女子部員が子ども達の指導として参加
大阪タカシマヤ「Let's スポ活」でイベント開催	5 日間にわたり開催されたイベント「Let's スポ活」で、大体大 DASH のブースを出展。来場者を対象に体力測定を実施
「夢へダッシュ！少年少女・女性アスリート応援プログラム」	スポーツ庁委託事業「女性アスリートの育成・支援プロジェクト」（女性アスリートの戦略的強化のための調査研究）の一環として実施。1 日目はシンポジウム、2 日目は小学生を対象とした習熟度別レスリング講習会を開催
セミナー 「オリンピックとスポーツ医・科学」を開催	本学教職員を対象に川原貴氏（前国立スポーツ科学センター長）を講師に招いてセミナーを開催
学内セミナー コーチングスキル講習会を開催	コーチングスキルの共有、向上を目的として、教職員を対象としたセミナー（全 3 回）を開催

### （3）課外活動の主な成績

高松宮記念杯 女子第 53 回 平成 29 年度全日本学生ハンドボール選手権大会で史上 3 校目の 5 連覇を達成したハンドボール部女子はその成績が認められ、関西運動記者クラブ（新聞、通信、放送 175 社、約 700 名加盟）が選出する関西スポーツ賞団体の部を受賞しました。また、国際大会においても、U-22 ハンドボール日本代表にも多くの選手が選出され、体育学部 楠本繁生准教授が女子代表監督を務めました。第 29 回ユニバーシアード競技大会（2017/台北）では本学からも多くの監督、コーチ、選手が参加しました。その中でも見事世界に輝いたサッカー男子日本代表に選ばれた菊池流帆（体育・3 年）さんは、その勝利に大きく貢献しました。他にもハンドボール男子 U-19 日本代表、バスケットボール男子 U-18 日本代表など、多くの選手が活躍しました。バスケットボール部男子監督 比嘉靖講師は平成 29 年度男子バスケットボール U-22 日本代表監督に就任し、2019 年イタリアで開催予定の第 30 回ユニバーシアード競技大会に向け始動しました。トルコで開催された夏季デフリンピック競技大会サムスン 2017 で日本代表選手に選出された金持義和さん（大体大 DASH 認定アスリート）は、銀メダル 4 つ、銅メダル 2 つを獲得しました。カナダで開催された国際ジュニア選手権大会、国際柔道選手権大会ではアンドレス・ジョー・ケーシー（体育・1 年）さんが見事優勝を果たしました。国内では、関西、西日本大会での活躍はもちろんのこと、全日本学生選手権大会において、なぎなた部（演技の部）、ライフセービング部、アルティメット部女子が優勝するなど、今年度も多数のクラブが優秀な成績を収めました。





## ◆平成 29 年度学長表彰対象者、クラブ◆

クラブ名／氏名	大会名	成績
ハンドボール部【女子】	高松宮記念杯 女子第 53 回 平成 29 年度 全日本学生ハンドボール選手権大会	優勝 (5 連覇)
なぎなた部	第 56 回全日本学生なぎなた選手権大会	演技の部 (福岡歩、仕入愛梨) 優勝
ライフセービング部	第 8 回全日本学生ライフセービングプール 選手権大会	4×50m メドレーリレー 優勝
サッカー部【男子】 菊池流帆	第 29 回ユニバーシアード競技大会 (2017/台北)	優勝 (世界一)
水上競技部【男子】 金持義和	夏季デフリンピック競技大会サムスン 2017	200m 背泳ぎ 銀メダル 100m 背泳ぎ 銀メダル 4×200m 自由形リレー 銀メダル 4×100m メドレー 銀メダル 50m 背泳ぎ 銅メダル 4×100m メドレー 銅メダル 4×100m 自由形リレー 銅メダル

## ◆各賞◆

受賞者	賞名
ハンドボール部【女子】	関西スポーツ賞 団体の部

## (4) 平成 29 年度 大島鎌吉スポーツ賞

平成 29 年度 大島鎌吉スポーツ賞の授賞式を行いました。今年度は 2 名の指導者に授与されました。

## ◆平成 29 年度 大島鎌吉スポーツ賞 受賞者◆

指導者	競技	選手名／大会名	結果
楠本繁生	ハンドボール部 【女子】	高松宮記念杯 女子第 53 回 平成 29 年度 全日本学生ハンドボール選手権大会	優勝
松尾元太	サッカー部 【男子】	菊池流帆 / 第 29 回ユニバーシアード競技大会 (2017/台北)	優勝

## 5) 就職力

学生一人ひとりが志望する進路の実現に向けて、キャリア支援に力を注いでいます。「就職」というこ

とだけではなく、学生の「潜在能力の開発・向上」さらに「社会人としてどうあるべきか」「人としてどう生きるか」を含め、学生自らがキャリアデザインを考え、自分の将来のビジョンを設計できるよう、様々なキャリア支援プログラムに取り組んでいます。

### (1) 就職状況

公務員現役合格者（教員を除く）は延べ 93 人と前年度に次ぐ合格者数となりました。教員採用試験現役合格者は延べ 26 人で、学校関係には 159 人が就職しました。企業、スポーツ関連には 279 人（前年度 310 人、前年比 89%）が就職しました。就職希望者の就職率は、体育学部が 96.2%（前年度 96.4%）、健康福祉学部が 92.4%（前年度 95.8%）、両学部を合わせると 95.3%（前年度 96.3%）となりました。

#### ◆就職希望者の就職率◆

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
体育学部	98.0%	98.2%	99.2%	96.4%	96.2%
健康福祉学部	96.6%	95.0%	97.1%	95.8%	92.4%
全体	97.7%	97.6%	98.8%	96.3%	95.3%

#### ◆公務員（教員除く）現役合格者数◆

受験年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
合格者数	85 人	83 人	76 人	94 人	93 人

#### ◆教員採用試験現役合格者数◆

受験年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
合格者数	30 人	30 人	27 人	22 人	26 人

### (2) 教職支援センターの取り組み

教員をめざす学生たちの熱い気持ちをより充実した形で支援するため、平成 25 年に教職支援センターを設立しました。教員養成事務機能の集約化と、本学の教職課程の質的向上を図り、教員免許状取得及び教職への就業等、教職を志望する学生の支援を目的としています。実技試験対策、教員採用試験対策講座など、多くの講座を毎年実施しており、面接（個人・集団）や集団討論、模擬授業などの練習も随時行っています。教員採用試験は都道府県によって試験科目も異なるため、学生たちは課外活動や授業の合間を縫って、熱心に受講しました。

### (3) キャリアセンターの取り組み

本学では学生生活に支障がないような支援を多く実施しています。1～3 年生の全学生対象に取り組んでいるキャリアフェスタもその一つで、大学を挙げてキャリア教育を行っています。学生一人ひとりが自らの視野を広げ、新たな職業観を作るとともに、大学で学ぶ意義と学習意欲の向上につなげ、その成果が積極的な就職活動へつながることをめざしています。希望者が多い公務員（教員除く）につ

いては様々な対策講座を実施し、学力向上に努めています。保護者懇談会も各地で数多く実施しています。I ターン、U ターン就職についての説明や、地元で教員として活躍されている卒業生に出席いただき、教員採用試験についての現状などを説明いただくなど、ニーズに合わせたプログラムを用意し、好評を得ています。以下は主な取り組みです。

◆学内セミナー（主に昼休みに開催）◆

参加者述べ人数	回数	主なセミナー、ガイダンス
1,256 人 (1～4 年生)	123 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・警察説明会（大阪府警、京都府警、兵庫県警、警視庁など）</li> <li>・現役大阪府警（本学 OB）による二次対策講座</li> <li>・消防署説明会（大阪市、堺市など）</li> <li>・リクナビ企業講座</li> <li>・マイナビキャリアガイダンス（低学年向け適性・適職診断）</li> <li>・SPI 試験 短期集中対策講座</li> <li>・就活交流会（他大学生含む）</li> <li>・見学ツアー（食品メーカー、消防、警察）</li> <li>・企業説明会（(株) タスクフォース、(株) ココカラファイン、つるや (株)、シダックス (株)、サンコーインダストリー (株)、(株) 日伝、キリンビール (株)、サントリービバレッジサービス (株)、(株) アーバンリサーチ、エースコック (株)、加藤産業 (株)、(株) 小松製作所 (KOMATSU)、大阪いずみ生協、(株) オリエンタルベーカリー、 など多数 ※順不同)</li> </ul>

◆保護者懇談会実施都道府県、参加者数◆

都道府県	保護者参加組数	学生在籍数	都道府県	保護者参加組数	学生在籍数
北海道	9	23	滋賀県	15	68
関東地区	10	37	大阪府※	152	254
長野県	5	10	岡山県	17	52
石川県	14	26	島根県	6	16
福井県	14	36	沖縄県	2	12
愛知県	31	62			

※大阪府は大阪体育大学で開催。大阪府以外の保護者も参加

## 6) 学生募集力

体育・スポーツ・健康・教育に関する科学的な理論を理解し、実技能力や実技指導能力、スポーツ組織のマネジメント能力を有する実践的な人材を養成することを目的とし、その人材募集に努めています。

## (1) 入試状況

大学全体の総志願者数は 2,695 人(前年度 2,796 人、前年比 96.4%)となり、若干の減少となりました。体育学部は 1,904 人(前年度 1,903 人でほぼ前年並み、教育学部は 791 人(前年度 893 人、前年比 89.0%)で 11%の減少となりました。体育学部の学科別では、スポーツ教育学科は 1,313 人(前年度 1,172 人、前年比 112%)で 12%の増加、健康・スポーツマネジメント学科は 591 人(前年度 731 人、前年比 81%)で 19%の減少でした。スポーツ教育学科は A0 入試の自己推薦型で当学科の募集を始めたことが志願者増につながりました。ただ、健康・スポーツマネジメント学科は前年度に引き続き志願者減少が続いています。教育学部のコース別では、小学校教育コースは 175 人(前年度 218 人、前年比 80%)で 20%の減少、保健体育教育コースは 616 人(前年度 675 人、前年比 91%)9%と減少と、昨年度増えた揺り戻しの減少となりました。大学院の総志願者数は博士前期課程が 38 人(前年度 16 人、前年比 237.5%)で 137.5%の増加で、博士後期課程が 1 人(前年度 11 人、前年比 10%)9%と大幅に減少となりました。

## (2) 学生募集活動

入試情報サイトの動画コンテンツを充実させました。また、進学相談会 63 会場、校内ガイダンス 114 校に参加しました。特に重点校、特別対応校、地方重点校には延べ 300 校に対し、高校訪問を強化しました。オープンキャンパスは全 6 回開催し、大学の魅力発信に努めました。

## 7) 広報・マーケティング力

大体大アイデンティティと大体大ブランドの醸成を図り、ステークホルダーとの長期的関係の構築のための活動に取り組んでいます。

### (1) パブリシティ強化

本学の教育、研究、クラブ活動、社会貢献活動等をプレスリリースしたほか、マスコミからの取材協力に関する連絡調整・実施協力を行い、テレビや新聞等、マスメディアへの露出増を支援しました。

### (2) Web 関連の強化

大学公式ホームページ、Facebook などの SNS を運営し、クラブ活動や地域貢献のイベント、教員の研究成果など、様々な情報を発信しました。SNS ではリアルタイムで発信をすることにより、在学生、卒業生、大学を応援していただく多くの関係者の皆様と関係構築を強化しました。

### (3) 各種広報誌の発行

大学広報誌を 2 種 (OUHS ジャーナル、OUHS スポーツ) 発行しています。

#### ◆広報誌◆

広報誌名	発行月	内容
OUHS ジャーナル	4 月、12 月	教育・研究に特化。年間 1 万 5 千部を発行
OUHS スポーツ	7 月、1 月	スポーツに特化。大会終了後や、特出すべき結果の際には、「速報」(A 版)を作成し、学内掲示、HP で発信。年間 3 万部を発行

#### (4) 教育学部リーフレット作成

平成 27 年度に設立した教育学部の魅力をより多くの方々に知っていただくため、学部リーフレットを作成しました。オープンキャンパスをはじめ、インターンシップや学校訪問などで配布しました。

#### (5) ホームカミングデー2017 を開催

多くの卒業生、そのご家族の皆様に参加いただきました。毎年楽しみにしていただいている卒業生も多く、世代を超えた交流の場となりました。

### 8) 組織力・経営力

法人および関連教育機関との連携強化、大学組織の点検・整備など、大学に属する全ての学生がよりよい環境で学べるよう、課題に取り組んでいます。また、大学経営を円滑に進め、本学が進めている中期計画最重点課題およびビジョン重点施策を推進するため、様々な改革に努めました。

#### (1) 大阪体育大学社会貢献センターを設置

生涯スポーツ実践研究センターと健康福祉実践研究センターは平成 29 年 4 月に合併し、新たに「大阪体育大学社会貢献センター」として始動しました。大阪体育大学社会貢献センターは、本学の教育・研究活動を社会とつなげることによって地域の拠点となることをめざすとともに、知的・人的資源を活用して、本学学生に実践的な場を提供し、教員の研究活動に資することを目的としています。

#### ◆これまでの実績◆

センター名	実績
生涯スポーツ 実践研究センター	子どもスポーツクラブ「OUHS キッズボーシャーズ」の主催 泉大津市教育委員会受託事業「泉大津市子どもの体力向上推進プロジェクト」 公益社団法人ライフスポーツ財団 ライフチャレンジ・ザ・ウォーク参加者アンケート調査 サンライズキャンプ 被災地復興支援活動 in 福島 OUHS スポーツキャンプ 熊取南小学校との連携事業（「大学探検!」、マラソン大会など） くまとりロードレースへのボランティア キッズスポーツフェスティバルの企画 おはようスポーツ 西成区民レクリエーション大会への審判の派遣 など
健康福祉 実践研究センター	発育発達児に見られる運動の不器用な子の運動指導法の検討・開発 特別支援教育トワイライト研修会の実施 幼児体操教室 特別支援教育 教育講演会の開催 小児がん児童生徒の体力保持に関する支援運動教室 障害体験授業 など



## (2) スポーツ局開局に向けた準備

各附置施設との協働や体制の整備、役割分担について準備委員会と作業部会を設け協議を行いました。定期的に全学部、教職員に向けた意見交換会も実施し、常に情報の開示、共有に努めました。

## (3) 健康福祉学部 閉学

健康福祉学部は、大阪体育大学附属福祉専門学校、大阪体育大学短期大学部の歴史を引き継ぎ、平成 15 年に体育系の大学として初めて設立されました。今日までの 15 年に渡る歳月の中で 1,500 名を超える人材を育成し、巣立った皆さんは福祉、教育をはじめとする様々な分野で活躍されています。平成 29 年度をもってその幕を下ろすことになりましたが、「みんなを愛し、みんなに学び、みんなといっしょに歩く」とする福祉の心を継承し、これからも本学の教育にしっかりと活かしてまいります。

## (4) Web 財務、旅費の導入

一部開始していた Web 財務、Web 旅費の完全導入が完了し、法人財務部と庶務部の重複業務を見直しました。経理部門を財務部に移行するための協議を進めました。



## 2. 大阪体育大学浪商中学校・高等学校

### ◆目標

平成 29 年度の活動は、ある一定の成果は確認できたものの、掲げた目標「泉州を代表する進学校」「大阪を代表するスポーツエリート校」にはまだまだ届いてない現状です。1 年間の計画から取り組みを検証し、また段階的な数値目標をクリアし、着実な歩みを続け、次のステップに向かっていかなければなりません。「不断の努力により、智・徳・体を修め、社会に奉仕する人材の育成」という建学の精神のもと、本学が創設され 97 年。創立 100 周年(2021 年)まで 3 年、浪商学園の 100 周年＝浪商高校の 100 周年であり、その記念すべき大きな節目を躍動感いっぱい、活気溢れる姿で迎え、次の 100 年に繋げていきたいと思っています。

### 1) 生徒募集活動の強化

昨年度から教員組織に入試広報部を配置し、入試対策室と連携した募集活動を行いました。日常の業務、役割分担、各種イベント(体験会、説明会、オープンスクール等)は協力体制の強化を図り、内容

も充実したものとなってきました。しかし、平成 29 年度入学者数は中学校 36 名、高校 254 名で、中学校全体の定員数、I 類・II 類のみ、募集人数を大幅に下回りました。

## 2) 大阪体育大学浪商高等学校 平成 29 年度 進学実績

平成 29 年度は 273 名の生徒が卒業しました。主な進路の内訳は大学 164 名、短期大学 11 名、専門学校 57 名、就職 23 名となっています。大阪体育大学(体育学部、教育学部)には 52 名が進学しました。今年度の特徴は以下の 3 つです。

- 国公立大学の合格者数 6 名(昨年 4 名)、産近甲龍の合格者数が 23 名と過去最高を記録
- 山口大学、近畿大学の医学部に合格
- 公務員(警察、消防)を含む就職希望者が大幅に増加

## 3) 学力向上のための体制整備

中高とも学習面では「大阪体育大学教育学部との連携」「学内予備校の拡充」「スタディサプリの導入」「NC ルームの活用」(講習、自習、アクティブラーニングなど新たな学習空間)「授業内 ALT」などの取り組みで強化を図りました。

## 4) 教育体制の強化

全ての教科において、三段階指導における指導分担を明確化し学力向上に努めました。また、より教育の充実を図るため校内研修の機会を増やし、情報共有に努めました。

## 5) 100 周年記念館完成

校舎特別委員会が発足し、特別教室棟建設に向けての準備を進めてきました。平成 29 年 6 月に着工し、平成 30 年 3 月竣工しました。「100 周年記念館」と名付けられた建物にはエントランス、NC ルーム、美術教室、音楽教室が作られ、浪商中学校・高等学校の新しい顔としてふさわしい教室棟になりました。エントランスには歴代のトロフィーなどが飾られ、歴史を感じることができます。NC ルームは、アクティブラーニングはもちろん、次世代の学びの形に対応するための中核教室として様々な使い方ができる仕様になっています。大いに活用し、「自ら考え自ら行動する」ことができる生徒の育成に役立てる空間になればと考えています。





## 6) クラブ活動 実績

クラブ活動、体育分野では中高専属トレーナーおよび大阪体育大学「大体大 DASH プロジェクト」との連携のもと「トレーニング講座」「貧血、栄養講習」「体力測定」「トレーナーの合宿、遠征、大会帯同」など他校にはないスポーツ科学的知見を取り入れました。



### ◆大阪体育大学浪商高等学校 主なクラブの成績◆

クラブ名	大会名	成績
男子硬式野球部	平成 29 年度春季大会近畿地区高校野球大会	ベスト 4
	平成 29 年度春季大会近畿地区高校野球大会大阪府予選	準優勝
	第 99 回全国高等学校野球選手権大阪大会	ベスト 8
水泳部	平成 29 年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会 (多数出場)	100m バタフライ 4 位入賞
	第 59 回日本選手権(25m)水泳競技大会	100m バタフライ 出場
	ジャパンオープン 2017 (50m)	100m バタフライ 出場
ハンドボール部	平成 29 年度全国高等学校総合体育大会 ハンドボール競技会	3 年連続出場 (4 回目)
	平成 29 年度第 41 回 全国高等学校ハンドボール選抜大会	ベスト 4 4 年連続出場 (9 回目)
	年代別日本代表選手 (U-19、U-16) 多数	
陸上部	平成 29 年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会	女子 100m、200m 出場 (1 名) 女子 800m 出場 (1 名)
	第 72 回国民体育大会 (愛顔つなぐえひめ国体)	少年女 B800m 5 位
	第 5 回全国高等学校陸上競技選抜大会	女子ハンマー投げ 出場 (1 名)
	第 11 回 U18 日本陸上競技選手権大会	男子砲丸投げ、円盤投げ 女子 800m 出場 (各種目 1 名)
	第 70 回全国高等学校陸上競技対校選手権大会近畿地区 予選会	男子砲丸投げ、円盤投げ 出場 (1 名) 女子 100m 2 位、200m 3 位、800m 5 位 (2 名)、1500m、3000m、ハンマー 投げ 出場 (各種目 1 名)
	平成 29 年度近畿地区高等学校駅伝競争大会	10 位

女子バスケットボール部	平成 29 年度 第 65 回 大阪高等学校バスケットボール新人大会 (中央大会)	ベスト 4
	平成 29 年度 第 64 回近畿高等学校バスケットボール大会	3 位
サッカー部	平成 29 年度 大阪高校春季サッカー大会 兼 全国高校総体予選	ベスト 32
柔道部	第 72 回大阪府高等学校総合体育大会柔道の部	男子個人 81kg 級 3 位
	第 49 回全日本ジュニア体重別選手権大阪府予選会	男子個人 55kg 級 3 位
	大阪高校強化選手に選出	
体操部	第 71 回近畿高等学校体操競技選手権大会	女子団体総合 3 位
レスリング部	2017 年全国高校生グレコローマン選手権	個人 ベスト 16
	2017 年風間杯全国高校選抜大会・個人戦	55 kg 級 出場
学外クラブ ボクシング	第 29 回全国高等学校ボクシング選抜大会 兼 JOC ジュニアオリンピックカップ	ベスト 8
学外クラブ 空手	カラテドリームフェスティバル 2017 全国大会	優勝 2 名
学外クラブ 競技エアロビック	第 8 回全日本高等学校エアロビック選手権大会	女子シングル部門 2 位

## ◆大阪体育大学浪商中学校 主なクラブの成績◆

クラブ名	大会名	成績
ハンドボール部	全国中学校体育大会 第 46 回全国中学校ハンドボール大会	ベスト 8
	第 71 回大阪中学校総合体育大会	優勝
	2017 年度第 21 回四日市ドームカップ中学生ハンドボール大会	優勝
	第 13 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会 大阪代表決定戦	優勝
	第 13 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会	ベスト 8
	第 26 回 JOC ジュニアオリンピックハンドボール大会 7 名が大阪府選抜チームに選出	
水泳部	第 25 回 近畿私立中学高等学校水泳競技大会	入賞者多数
	第 57 回全国中学校水泳競技大会	出場
	ナショナル強化合宿選手	



### 3. 大阪青凌中学校・高等学校

#### ◆目標

大阪青凌中学校・高等学校の基本目標は、1) 校訓（自主自律・稚心を去れ）の精神を体現し、常に生徒の力を伸ばすことを意識した教育活動の取り組み、2) 生徒・保護者・教職員の学校に対する満足度の向上、3) 国公立大学 35 名（京大・阪大・神戸大を含む）、関関同立 100 名の合格者数の実現、以上 3 つです。

#### 1) 2017 年度大学進学実績

国公立大学は、筑波大学・千葉大学・神戸大学・大阪市立大学・大阪府立大学等、計 28 名（昨年度 23 名）の合格者を出すことができました。実数の上で 2 年連続の増加です。しかしながら中期目標である京大、阪大の合格者がありませんでした。来年度はこの最上位校を含めた中期目標の達成をめざします。関西 4 私大（関関同立）の合格者（延べ数）は、私大上位校の難化にともない 50 名にとどまりました。なお産近佛龍の合格者（延べ数）は 199 名となりました。これらの合格についても、来年度に向けて特に関西 4 私大の合格者倍増をめざします。また入試対策の強化として、本格的に放課後の外部予備校講師による講習を受益者負担で開始しました。対象は高校 2 年生および 3 年生です。

#### 2) 国語科授業を中心とした文章力強化

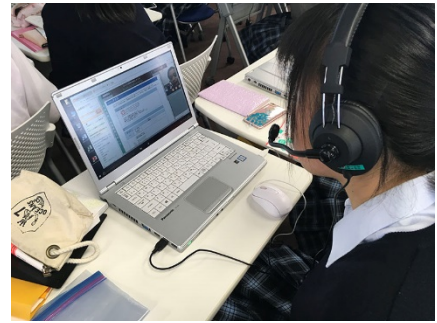
国語の授業を中心とした文章力養成の取り組みを継続して実施していますが、2015 年度以降の「2020 年の大学入試改革」も視野に入れつつ、系統性や 6 年間を見通した取り組みの再編をしました。特に中学の国語授業においては、授業で身に付けた文章力をもとに、新聞への投書や長期休暇中の作文コンクールに積極的に取り組み、学校単位で応募するようになっています。結果、水の作文コンクール中央審査佳作を筆頭に、新聞掲載 2 名、作文コンクール入選 6 名という、大変喜ばしい結果につながりました。





### 3) アクティブラーニング オンライン英会話授業の充実

特進コース（文系）では、日常生活における身近な話題を英語で発信することを目標に、英会話の授業を行っています。この授業では、インターネット回線を利用したオンライン学習ツールを活用し、パソコンの画面に映る外国人講師とマンツーマンで英会話を学んでいます。1、2 学期は、異文化理解を深めながらグローバルな視点を養い、3 学期には、「学校に制服は必要か」、「放課後のアルバイトの是非」などのテーマを設定し、ディベートを行います。



### 4) 教員の働き方改革

中堅教員が外部研修に参加し、研修を通して教員のビジネスマナーの向上に努めました。また、変形労働時間制を継続実施しており、年間カレンダーの作成をすることで時間管理、業務設計力の向上を行っています。

### 5) 校地移転準備

大阪府島本町校地移転に向け、設計会社との会議を月 1 回実施し、教室、特別教室、職員室、食堂等のデザインの骨子が完成し、起工式も執り行いました。島本町関係者や学校関係者、近隣住民に報告し、関係構築に努めました。

### 6) ICT 環境整備の検討

生徒 1 人に対し 1 台のタブレット端末所持の実施に向け、国内の学校（計 7 校）を視察しました。形式、ハードウェア、ソフトウェア等の検討を重ね、「iPad Pro（セルラーモデル）」の導入を決定しました。

### 7) 高等学校吹奏楽部が北摂地区代表に選出

豊中市立文化芸術センターにおいて大阪府吹奏楽コンクール北摂大会（高等学校小編成の部）が開催されました。「仮面幻想」（作曲：大栗裕）を好演し、見事優秀賞を獲得し北摂地区代表に選出されました。北摂地区代表として臨んだ大阪府大会では、関西大会への出場こそ叶いませんでしたが、存分に演奏を楽しんで奨励賞を受けました。少ない部員数ながら、互いに切磋琢磨して日々の練習に励んだことが、バンドとしてのチームワークを育み、このよう素晴らしい結果につながりました。





#### 4. 大阪体育大学浪商幼稚園

##### ◆目標

知育・徳育・体育を習得し、生活を豊かなものとするために自ら進んで創造する子ども、またバイリンガル保育環境により多様性を柔軟に受け入れ、個性を輝かせる豊かな表現力を持つ子どもを育成します。

##### 1) 園児募集の取り組み

見学会（5月から9月）を保育や行事に支障のないよう9日間に日数を減らし、回数を18回（1日2回実施）に増やしました。171組の申し込みがあり、154組にご参加いただきました（前年比8%増）。また、入園募集説明会開催には95組にご参加いただきました（前年比5%増）。イマージョンクラスにおいても説明会、プレスクール保護者のための公開保育、イマージョンクラス見学会（随時）、親子参加型イベント（夏、秋）など、体験を重視する取り組みを数多く実施しました。その結果、年少117名（4クラス）、年中97名（3クラス）、年長107名（4クラス）の合計321名の園児募集に繋がりました。

##### 2) 標準クラスにおける「英語遊び」の試験的導入

- ▶ すべての園児が英語という言葉を通して、季節や文化に触れながら豊かな思考力を養う
- ▶ ネイティブやバイリンガル教員とのコミュニケーションから、自己表現への意欲を育む
- ▶ アクティビティに自ら参加し考えて行動することで、判断力と自信を培う

標準クラスにおいて、イマージョンプログラムで培ってきたノウハウを生かし、英語教育とは異なる「英語で感じ、英語で遊ぶ」をコンセプトとした「英語あそび」の導入を試験的に開始しました。平成30年度にはTPR指導法（「Total Physical Response（全身反応教授法）」。身体の動きを通して「聞くこと」の能力を発達させる方法）に基づいたレッスンを年間カリキュラムの中で展開していく予定をしています。

### 3) 支柱のバリアフリー改修工事完了

南・東園舎を支えるピロティ支柱すべてのバリアフリー施行（衝突での怪我を防止）が完了しました。南から北に向かって、色の三原色から始まり虹色に一本一本変化をもたせました。プロテクションとしての機能のみならず、園生活において日々さりげなく色に親しむことは、様々な物・動物・植物・自然現象などの認識に繋がる大切な要素です。保育時間のみならず、登降園時においても環境を通して、子ども達や先生方とのコミュニケーションの機会が広がることを願っています。ミニ広場側の支柱 2 本は工事業者に無理をお願いして、ある「想い」をオブジェ風に仕立てていただきました。円柱の亚克力ボードの中には、たくさんのカラーボールが詰まっています。支柱が建物を支える様に、幼稚園は子ども達、保護者の皆様、教職員が一つになり支えられることで成り立っています。来年度、浪商幼稚園は創立 70 周年を迎えますが、これからの園の確かな存続は、どんな苦難があっても、確かな信頼に基づいたみんなの絆という支えがあるからこそ。そんな「想い」を形にしました。



### 4) 大型遊具の設置

スウェーデンの HAGS 社はヨーロッパ最大の公園施設メーカーです。多彩な製品の中でも遊具は特に有名で、ヨーロッパを中心に世界 70 カ国に輸出され、そのクオリティと魅力は社会や文化の違いを超えて、そこで遊ぶ子ども達の笑顔で証明されています。船で 2 ヶ月かけてやってきたパーツは丸二日を費やして、やっと組み上がりました。北欧らしい彩りやデザインが園庭に華を添えてくれることでしょう。2 歳児さんや年少さん向けのコンパクトな遊具を選択したことで、あわせて旧の遊具を撤去して出来たオープンスペースにサンシェードを設置し、日陰の下で子ども達が走り回ったり、ごろごろ遊べる様になりました。



### 5) 幼稚園バスの増大に向けた取り組み

園児の登園の負担軽減のため、3 台から 4 台体制に向け準備をしました。またバスルートの見直しも実施しました。

### 6) 創立 70 周年に向けた取り組み

平成 30 年度に迎える幼稚園創立 70 周年に向け、記念誌の発行の準備、記念式典実施に向けた具体的な実施内容、実施時期を検討しました。





## 5. 法人本部

### ◆目標

法人は来るべき学園創立 100 周年に向けて、学園の将来構想（ビジョン）の実現をめざし、教学の主体性を尊重しながら、時代の要請に応える魅力ある教育機関とするため、先見的な改革・改善に取り組んでいきます。また、学園全体として地域社会に認められる教育機関としての発展をめざします。

### 1) 管理運営制度の整備

教職員がよりよい環境で園児、生徒、学生の教育に臨めるよう、就労環境の整備に努めています。

#### (1) 規程の整備

法改正や労働政策動向を見据えた規程の整備を行いました。

#### (2) 監査機能充実と情報公開

監事監査、監査法人監査と連携し、内部監査の継続実施とフィードバックによる改善の充実を行いました。

#### (3) 人材育成

常に社会の変革を捉え、教職員の能力向上を目的に、適切な研修を実施し、サポート体制の充実を図りました。

#### (4) 組織風土改革プロジェクト

学園創立 100 周年に向けた取り組みの一環として、強固な組織基盤の構築に向けて「組織風土改革」に取り組むこととし、次世代を担う事務職員の人材育成も兼ねてプロジェクトを立ち上げました。平成 29 年度については、「事務職員行動指針」に基づいて具体的取り組みについて検討し、4 項目を選定し実施しました。



## 2) 施設の整備

学園に集う園児、生徒、学生がよりよい環境で学ぶことができるよう、環境整備に努めています。

### (1) 大阪体育大学浪商高等学校 特別教室「100周年記念館」建設

校舎特別委員会が発足し、特別教室棟建設に向けて準備を進めてきました。平成 29 年 6 月に着工し、平成 30 年 3 月竣工しました。

### (2) 大阪青凌中学校・高等学校 島本町に移転

2 年後に大阪府島本町(サントリー研究センター跡地)に校地を移転するにあたり、平成 30 年 2 月起工式を行いました。

### (3) 診療体制の強化ほか

学生・教職員のニーズに対応するため、医療機器の充実を図り、診療体制整備の強化に当たりました。また、熊取キャンパス受変電整備更新計画を順次実施しました。

## 3) 学園 100 周年事業の取り組み

2021 年度に迎える学園 100 周年に向け、様々な取り組みが行われました。

### (1) 学園創立 100 周年記念委員会を発足

学園が一枚岩となって活動を行うための企画立案を積極的に行い、イベント活動を行う「学園創立 100 周年記念委員会」が本格的に活動を開始しました。

### (2) 100 周年記念ロゴを制定

先人たちが築き上げた 100 年の歴史に敬意を払うとともに、新たな 100 年へのステージに向け、これからも走り続け、時代の要請に応えるべく魅力ある教育機関として、更なる成長と発展をめざすという決意がこのデザインに込められています。



### (3) 学園ホームページ、100 周年記念サイトを開設

学園ホームページ、100 周年記念サイトを開設しました。

◇ 学校法人浪商学園ホームページ : <https://www.namishogakuen.jp/>

◇ 100 周年記念サイト : <https://www.namishogakuen.jp/100th/>

### Ⅲ 財務の概要

#### ◆平成 29 年度決算について◆

法人事務局 財務部

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容と、支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を表します。事業活動収支計算書は、企業会計の〔損益計算書〕に相当するものです。事業活動収支計算書では総収入を事業活動収入と言い、総支出は事業活動支出と言います。当該年度の事業活動収入を財源として、当該年度の事業活動支出を賄えば、健全な財務状況だと言えます。基本金とは、学園の施設・設備、機器備品、図書等の基本的な財産を取得する為の資金で、又学園を維持すべき資産の額です。基本金が充実される事は、教育研究にとって良い環境であると言えます。

#### 【決算の概要】

##### 1. 収支計算の状況

###### ○資金収支計算書

前年度に比べて収入の部は、学生生徒等納付金収入が1億6千2百万円増加しました。しかし、補助金収入につきましては、国庫補助金が9千7百万円、学研究振興補助金が1百万円減少、府経常費補助金が1百万円増加した結果、補助金総額で9千7百万円減少しました。また、退職金財団交付金収入が7百万円減少しました。借入金収入20億円は大阪青凌高校・中学の移転に伴う土地取得及び浪商高校・中学の特別教室棟建設資金として借入しました。支出の部は、退職金支出が増加した結果、人件費が1千3百万円増加しました。また、教育研究経費支出が4百万円、管理経費支出が2千5百万円、施設関係支出が19億4千6百万円増加しました。しかし、設備関係支出が4千6百万円減少しています。施設関係支出の増加要因は、大阪青凌高校・中学の移転に伴う土地取得17億9千2百万円及び浪商高校・中学の特別教室棟建設3億6千2百万円によるものです。また、借入金返済支出1億2千5百万円及び借入金利息支出3百万円が増加しています。その結果、翌年度繰越支払資金は16億3千万円となっています。

###### ○事業活動収支計算書

事業活動収入合計は、59億1千6百万円で、前年度に比べて7千3百万円増加しています。これは、学生生徒等納付金1億6千2百万円増加しましたが、経常費等補助金が8千万円及び退職金財団交付金収入が7百万円減少したことによるものです。支出の部の事業活動支出合計は、61億4千8百万円で、前年度に比べて3千9百万円の減少となっています。これは、人件費が4千5百万円減少したことによるものです。人件費の減少は、退職給与引当金繰入額の減少が主な要因となっています。その結果、当年度収支差額は8億3千8百万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は120億6千5百万円の支出超過となっています。

##### 2. 貸借対照表の状況

平成29年度は、大阪青凌高校・中学の移転に伴う土地取得及び浪商高校・中学の特別教室棟建設の設備に投資しました。その結果、平成30年3月期決算では、有形固定資産は19億9千3百万円増えました。現金預金は、本年度末16億3千万円で、前年度末19億2千万円に比べて2億9千万円減少しています。減少した主な理由は、前年度より施設関係支出の増加及び浪商高校及び青凌高校・中学の入学手続き時の学費納入期限変更による前受金収入の減少です。

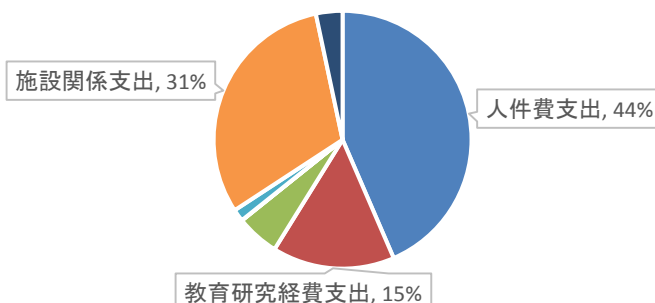
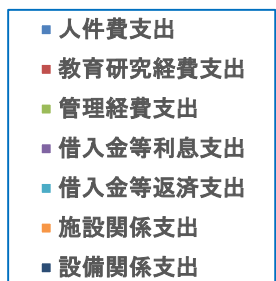
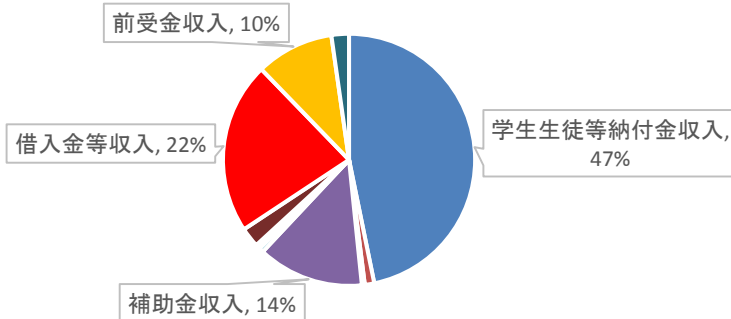
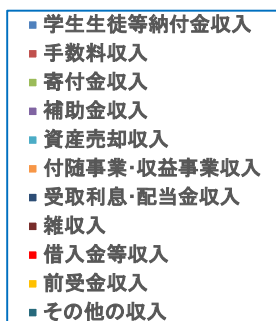
1-1. 平成29年度 資金収支計算書

(単位:千円)

	科 目			
	予 算	決 算	差 異	
収入の部	学生生徒等納付金収入	4,243,690	4,240,008	3,682
	手数料収入	106,610	109,991	△ 3,381
	寄付金収入	33,240	33,240	0
	補助金収入	1,231,440	1,234,650	△ 3,210
	（国庫補助金収入）	289,960	290,505	△ 545
	（府県補助金収入）	941,480	944,145	△ 2,665
	資産売却収入	52,310	52,485	△ 175
	付随事業・収益事業収入	36,390	41,837	△ 5,447
	受取利息・配当金収入	12,070	12,081	△ 11
	雑収入	226,820	229,019	△ 2,199
	借入金等収入	2,000,000	2,000,000	0
	前受金収入	843,370	905,013	△ 61,643
	その他の収入	202,320	203,713	△ 1,393
	資金収入調整勘定	△ 1,169,920	△ 1,181,209	11,289
	前年度繰越支払資金	1,920,030	1,920,031	
<b>収入の部合計</b>	<b>9,738,370</b>	<b>9,800,859</b>	<b>△ 62,489</b>	
支出の部	人件費支出	3,583,984	3,582,464	1,520
	教育研究経費支出	1,289,630	1,262,812	26,818
	管理経費支出	448,010	443,114	4,896
	借入金等利息支出	2,940	2,932	8
	借入金等返済支出	125,000	125,000	0
	施設関係支出	2,554,030	2,542,612	11,418
	設備関係支出	274,343	274,234	109
	資産運用支出	0	0	0
	修学旅行預り金支払支出	21,247		
	予備費	88,505		88,505
	資金支出調整勘定	△ 417,330	△ 541,159	123,829
	翌年度繰越支払資金	1,300,350	1,629,834	△ 329,484
	<b>支出の部合計</b>	<b>9,738,370</b>	<b>9,800,859</b>	<b>△ 62,489</b>

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

※ ( )の科目は内数です



## 1-2. 平成29年度 事業活動収支計算書

(単位:千円)

科 目		予 算	決 算	差 異	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	4,243,690	4,240,008	3,682
		手数料	106,610	109,991	△ 3,381
		寄付金	32,710	32,710	0
		経常費等補助金	1,231,440	1,234,650	△ 3,210
		付随事業収入	36,390	41,837	△ 5,447
		雑収入	226,820	229,176	△ 2,356
		収入計	5,877,660	5,888,372	△ 10,712
	支出の部	人件費	3,622,558	3,620,179	2,379
		教育研究経費	1,993,460	1,967,825	25,635
		(減価償却額)	702,910	704,088	△ 1,178
		管理経費	554,720	550,550	4,170
		(減価償却額)	106,710	107,437	△ 727
		徴収不能額等	1,040	528	512
支出計	6,171,778	6,139,084	32,694		
収支差額		△ 294,118	△ 250,711	△ 43,407	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	12,070	12,081	△ 11
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		その他の教育活動外収入計	12,070	12,081	△ 11
	支出の部	借入金等利息	2,940	2,932	8
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	2,940	2,932	8
	収支差額		9,130	9,150	△ 20
経常収支差額		△ 284,988	△ 241,562	△ 43,426	
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	711	△ 711
		その他の特別収入	12,220	14,489	△ 2,269
		特別収入計	12,220	15,200	△ 2,980
	支出の部	資産処分差額	6,362	6,050	312
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	6,362	6,050	312
	収支差額		5,858	9,150	△ 3,292
予備費		161,210		161,210	
基本金組入前当年度収支差額		△ 440,340	△ 232,412	△ 207,928	
基本金組入額合計		△ 935,860	△ 605,759	△ 330,101	
当年度収支差額		△ 1,376,200	△ 838,170	△ 538,030	
前年度繰越収支差額		△ 11,226,870	△ 11,226,865	△ 5	
翌年度繰越収支差額		△ 12,603,070	△ 12,065,035	△ 538,035	
(参考)					
事業活動収入計		5,901,950	5,915,654	△ 13,704	
事業活動支出計		6,181,080	6,148,065	33,015	

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

※ ( )の科目は内数です

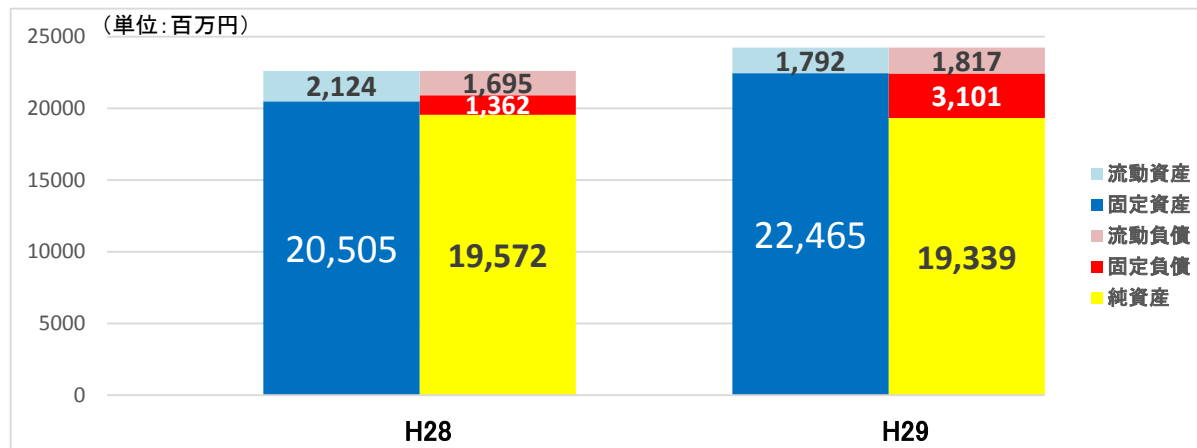
1-3. 平成29年度末 貸借対照表

(単位：千円)

	科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
資 産 の 部	固定資産	22,465,237	20,505,126	1,960,111
	有形固定資産	21,502,002	19,508,932	1,993,070
	(土地)	10,204,099	8,179,956	2,024,143
	(建物)	8,243,589	8,233,370	10,219
	(構築物)	782,348	788,733	△ 6,385
	(教育研究用機器備品)	633,823	675,018	△ 41,195
	(管理用機器備品)	59,528	40,606	18,922
	(図書)	1,269,750	1,234,376	35,373
	(車両)	8,716	4,670	4,046
	(建設仮勘定)	300,150	352,202	△ 52,053
	特定資産	398,133	398,133	0
	(減価償却引当特定資産)	198,293	198,293	0
	(退職給与引当特定資産)	199,840	199,840	0
	その他の固定資産	565,102	598,061	△ 32,959
	(電話加入権)	1,731	1,731	0
	(施設利用権)	760	760	0
	(ソフトウェア)	53,302	85,841	△ 32,539
(有価証券)	508,332	508,332	0	
(長期貸付金)	977	1,397	△ 420	
流動資産	1,792,229	2,123,793	△ 331,564	
(現金預金)	1,629,834	1,920,031	△ 290,197	
(未収入金)	162,394	203,762	△ 41,367	
資産の部合計	24,257,466	22,628,919	1,628,547	
負 債 の 部	科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
	固定負債	3,101,372	1,362,451	1,738,921
	(長期借入金)	1,725,000	0	1,725,000
	(長期未払金)	107,945	131,740	△ 23,794
	(退職給与引当金)	1,268,427	1,230,711	37,715
	流動負債	1,816,815	1,694,778	122,037
	(短期借入金)	150,000	0	150,000
	(未払金)	567,537	457,560	109,977
	(前受金)	905,013	1,018,913	△ 113,900
	(預り金)	140,214	143,007	△ 2,793
(修学旅行費預り金)	54,051	75,299	△ 21,247	
負債の部合計	4,918,187	3,057,229	1,860,958	
純 資 産 の 部	科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
	基本金	31,404,314	30,798,555	605,759
	(第1号基本金)	31,011,314	30,405,555	605,759
	(第4号基本金)	393,000	393,000	0
	繰越収支差額	△ 12,065,035	△ 11,226,865	△ 838,170
純資産の部合計	19,339,278	19,571,690	△ 232,412	
負債及び純資産の部合計	24,257,466	22,628,919	1,628,547	

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

※ ( )の科目は内数です

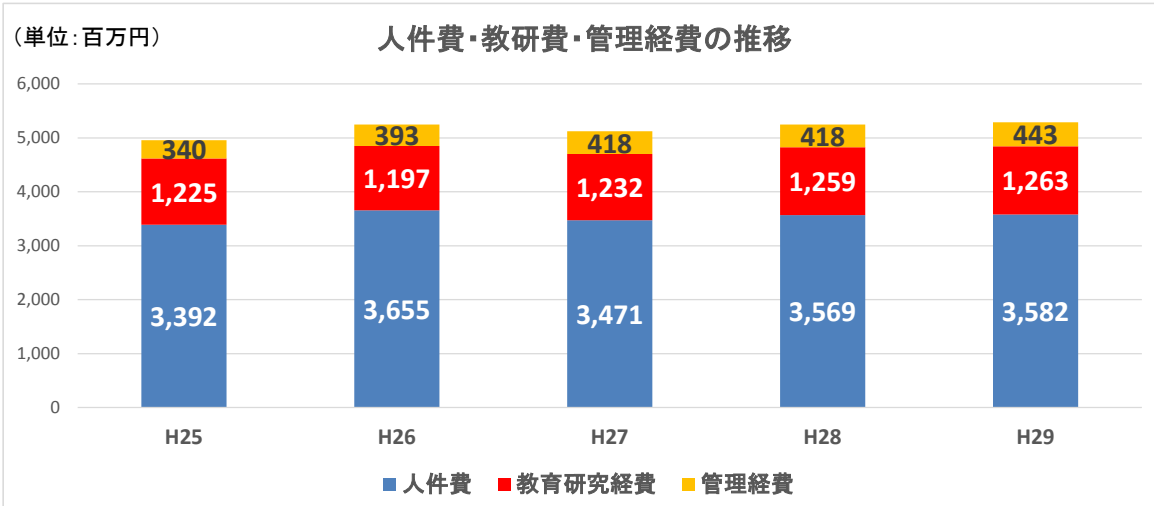
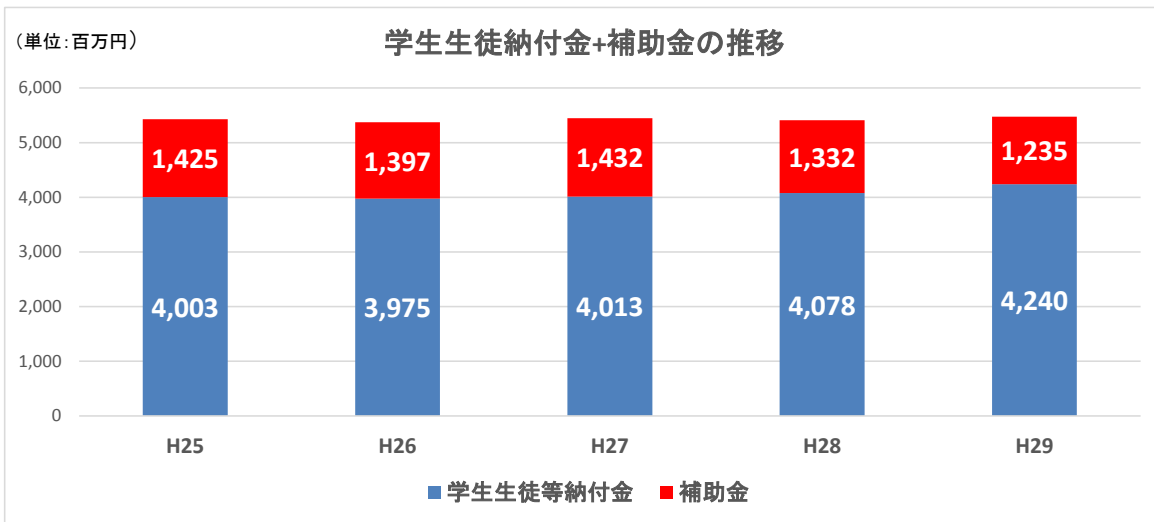


2-1. 資金収支の推移

(単位:千円)

科 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
収入の部	学生生徒等納付金	4,002,820	3,975,204	4,012,941	4,078,193	4,240,008
	手数料	112,191	136,882	125,862	114,769	109,991
	寄付金	34,460	38,600	70,247	34,378	33,240
	補助金	1,424,975	1,396,581	1,431,860	1,332,327	1,234,650
	資産売却	0	0	1,014	528,582	52,485
	付随事業・収益事業	18,923	22,868	19,708	26,195	41,837
	受取利息・配当金	22,496	19,011	19,022	12,084	12,081
	雑収入	106,392	278,281	121,999	195,746	229,019
	借入金等	0	0	0	0	2,000,000
	前受金	923,825	948,443	952,713	1,018,913	905,013
	その他の収入	1,112,993	263,328	254,807	140,433	203,713
	資金収入調整勘定	△ 1,151,958	△ 1,178,457	△ 1,087,959	△ 1,156,644	△ 1,181,209
	前年度繰越支払資金	1,945,258	1,758,489	2,273,436	1,742,355	1,920,031
	<b>収入の部合計</b>	<b>8,552,374</b>	<b>7,659,230</b>	<b>8,195,651</b>	<b>8,067,330</b>	<b>9,800,859</b>
科 目		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
支出の部	人件費	3,392,040	3,655,032	3,471,258	3,568,823	3,582,464
	教育研究経費	1,225,082	1,196,539	1,231,755	1,258,755	1,262,812
	管理経費	339,643	393,467	418,396	418,242	443,114
	借入金等利息	0	0	0	0	2,932
	借入金等返済	0	0	0	0	125,000
	施設関係	1,386,019	221,245	778,657	596,934	2,542,612
	設備関係	424,356	277,204	348,833	320,167	274,234
	資産運用	0	0	0	0	0
	その他の支出	384,653	294,506	633,579	425,079	479,016
	資金支出調整勘定	△ 357,908	△ 652,200	△ 429,182	△ 440,700	△ 541,159
	翌年度繰越支払資金	1,758,489	2,273,436	1,742,355	1,920,031	1,629,834
<b>支出の部合計</b>	<b>8,552,374</b>	<b>7,659,230</b>	<b>8,195,651</b>	<b>8,067,330</b>	<b>9,800,859</b>	

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります  
 ※ 平成25～27年度は、改正学校法人会計基準に基づいて組み替えた参考数値です





2-2. 事業活動収支の推移

(単位:千円)

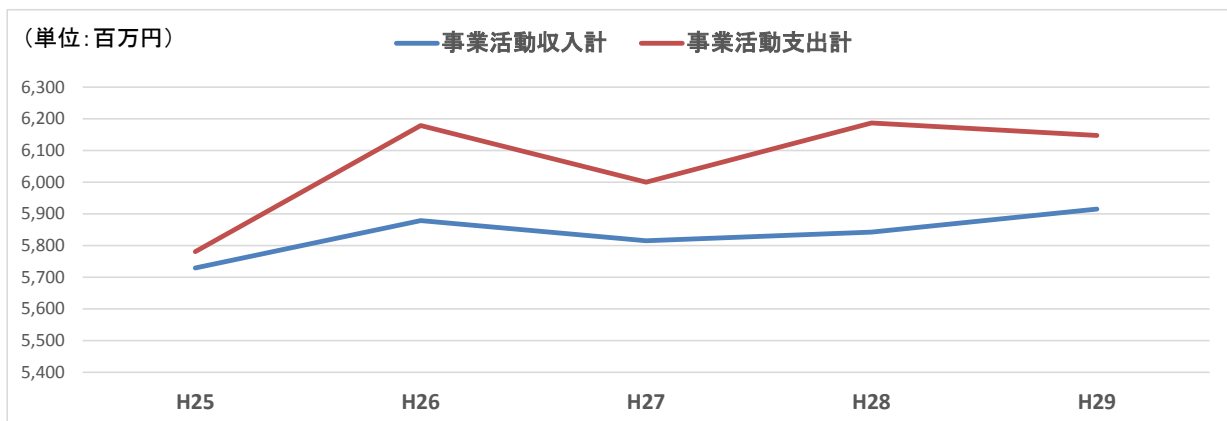
		科 目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	4,002,820	3,975,204	4,012,941	4,078,193	4,240,008
		手数料	112,191	136,882	125,862	114,769	109,991
		寄付金	39,124	49,544	36,640	31,475	32,710
		経常費等補助金	1,424,975	1,396,581	1,431,860	1,315,175	1,234,650
		付随事業収入	18,923	22,868	19,708	26,195	41,837
		雑収入	108,381	279,155	122,434	196,091	229,176
		収入計	5,706,414	5,860,233	5,749,446	5,761,897	5,888,372
	支出の部	人件費	3,416,060	3,785,429	3,493,567	3,665,239	3,620,179
		教育研究経費	1,862,487	1,884,600	1,939,002	1,939,252	1,967,825
		(減価償却額)	637,405	688,061	694,367	679,222	704,088
		管理経費	436,593	498,143	529,145	524,337	550,550
		(減価償却額)	96,950	104,676	110,680	106,095	107,437
		徴収不能額等	1,199	1,468	548	552	528
		支出計	5,716,339	6,169,640	5,962,261	6,129,379	6,139,084
<b>収支差額</b>		<b>△ 9,925</b>	<b>△ 309,407</b>	<b>△ 212,816</b>	<b>△ 367,482</b>	<b>△ 250,711</b>	
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	22,496	19,011	19,022	12,084	12,081
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入計	22,496	19,011	19,022	12,084	12,081
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	0	2,932
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0	0	2,932
	<b>経常収支差額</b>		<b>12,570</b>	<b>△ 290,397</b>	<b>△ 193,794</b>	<b>△ 355,398</b>	<b>△ 241,562</b>
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	452	29,830	711
		その他の特別収入	0	0	46,063	38,572	14,489
		特別収入計	0	0	46,515	68,403	15,200
	支出の部	資産処分差額	64,168	8,919	37,815	57,917	6,050
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	64,168	8,919	37,815	57,917	6,050
<b>基本金組入額合計</b>		<b>△ 563,065</b>	<b>△ 239,881</b>	<b>△ 847,731</b>	<b>△ 646,271</b>	<b>△ 605,759</b>	

(参考)

事業活動収入計	5,728,910	5,879,244	5,814,983	5,842,384	5,915,654
事業活動支出計	5,780,507	6,178,559	6,000,076	6,187,296	6,148,065

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

※ 平成25～27年度は、改正学校法人会計基準に基づいて組み替えた参考数値です





2-3. 貸借対照表の推移

(単位：千円)

科 目	平成25年度末	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末
<b>固定資産</b>	20,922,178	20,629,801	20,913,304	20,505,126	22,465,237
有形固定資産	19,422,408	19,125,501	19,429,336	19,508,932	21,502,002
特定資産	398,133	398,133	398,133	398,133	398,133
その他の固定資産	1,101,636	1,106,167	1,085,834	598,061	565,102
<b>流動資産</b>	1,927,214	2,528,201	1,881,786	2,123,793	1,792,229
<b>資産の部合計</b>	<b>22,849,329</b>	<b>23,158,001</b>	<b>22,795,090</b>	<b>22,628,919</b>	<b>24,257,466</b>
<b>固定負債</b>	1,065,133	1,249,609	1,282,894	1,362,451	3,101,372
<b>流動負債</b>	1,383,248	1,806,696	1,595,594	1,694,778	1,816,815
<b>負債の部合計</b>	<b>2,448,382</b>	<b>3,056,306</b>	<b>2,878,488</b>	<b>3,057,229</b>	<b>4,918,187</b>
<b>純資産</b>	29,065,032	29,304,553	30,152,284	30,798,555	31,404,314
繰越収支差額	△ 8,664,022	△ 9,202,857	△ 10,235,682	△ 11,226,865	△ 12,065,035
<b>純資産の部合計</b>	<b>20,401,011</b>	<b>20,101,696</b>	<b>19,916,602</b>	<b>19,571,690</b>	<b>19,339,278</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>22,849,392</b>	<b>23,158,001</b>	<b>22,795,090</b>	<b>22,628,919</b>	<b>24,257,466</b>

※ 単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります

※ 平成25～27年度は、学校法人会計基準改正前の数値です

